

令和5年12月15日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

産業建設委員会
委員長 櫻田 誠子

視察報告書
視察の概要は下記のとおりです。

記

- 1 参加委員 委員長 櫻田 誠子
副委員長 木村 美輝
委員 阿部 和芳、宇都宮 弘和
阿部 久一、後藤 兼位
- 2 視察日時 令和5年10月18日から
令和5年10月20日まで 3日間
- 3 視察先及び視察内容
(1) 神奈川県平塚市
 - 農業担い手総合対策事業について
 - 農業のイメージアップとPRについて
 - 農業における新事業の創出及び新商品の開発支援、販路拡大に向けた支援について(2) 静岡県焼津市
 - 水産業の振興について
 - 製造品の販路拡大や焼津のブランド力向上について
 - 水産物を中心とした観光プロモーションについて
- 4 視察目的 別頁のとおり
- 5 視察概要 別頁のとおり
- 6 所 感 別頁のとおり
- 7 添付書類 別頁のとおり
- 8 経 費 7人 519,020円 (随行職員の旅費を含む)

平塚市

『農業担い手総合対策事業について』
『農業のイメージアップとPRについて』
『農業における新事業の創出及び新商品の開発支援、販路拡大に向けた支援について』

(1) 平塚市の農業施策について

【視察概要】

1. 平塚市の農業について

平塚市の農業は、神奈川県において県内第1位の米の生産量を有する水田地帯と、なだらかな丘陵部の畑地を基盤としており、稲作、露地野菜、施設園芸、畜産等が行われており、恵まれた自然条件と都市近郊という立地条件をいかし、多種多様な農産物が生産されている。農業経営体の数は2020年では1230経営体、経営農地面積87,978a、農業経営体県内順位は第3位、経営耕地面積は第3位となっており、農業産出額（推計）では、米は第1位、いも類第3位、野菜第5位、花き第4位、乳用牛第2位、豚第4位である。（データは、農林業センサス2020より）

2. 農業の主な課題

一つ目は、農業者の高齢化や減少問題である。課題解決の対策としては、担い手の確保や持続可能な農業の推進、経営の効率化と生産性の向上さらには、農地利用の最適化の推進を進める必要があること。二つ目は、消費者ニーズへの対応である。農業への理解の醸成不足や品質の高い農産物の安定生産、知名度と付加価値をどのように向上していくかである。三つ目は農業環境についてである。農道や用排水路の維持保全の問題、鳥獣被害の効果的な被害防止対策、多面的機能の維持など主な課題が上げられた。

3. 農業の目標と施策

目標を「都市近郊の立地をいかした都市農業の活性化」として掲げ、その目標達成に向けた施策として3つの施策を実施してきた。

【施策1】担い手の確保・育成と持続可能な都市農業の推進

1 担い手の確保・育成

- ・新規就農者の確保（青年就農の促進、企業参入促進、定年帰納農者の確保・育成）
- ・多様な就農者の育成（認定農業者の育成、助成の農業参画の推進、農作業受委託組織の拡充）

2 持続可能な都市農業の推進

- ・農地の集積・流動化と大区画化
- ・省力化や高品質生産を可能とする技術の導入

(先進技術の活用(スマート農業)、関係機関と連携した技術支援)

- ・労働力の確保

【施策2】 消費者ニーズに応える農産物の生産と地産地消の推進

- 1 消費者ニーズに応える農産物の生産
 - ・安心・安全な農産物の生産
 - ・実需要者ニーズに応える農産物の生産
- 2 地産地消の推進
 - ・販路拡大(直接販売の推進、農作物の高付加価値化)
 - ・利用促進に向けた情報発信(情報の発信、観光との連携による取組推進、食育の推進、平塚市農産物PRキャラクター「ベジ太」を活用したPR)

【施策3】 生産環境保全と多面的機能の活用

- 1 生産環境保全
 - ・農地の保全(生産基盤の維持管理と整備、市街化区域内農地の保全・活用、耕作放棄地対策)
 - ・環境に配慮した農業の推進
 - ・鳥獣被害対策
- 2 多面的機能の活用
 - ・農業体験
 - ・多面的な機能の発揮



4. 具体的な事業について

①担い手総合対策事業について

【市民提案型協働事業】 ひきこもりの若者と農家をつなぐ就農支援事業

「農業体験を通じて不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業」について、協働契約を締結。不登校や働きたい意思を持ちながら働きづらさを抱える若者が、湘南ライスセンター(株)や平塚市内の農家の下で農業体験に参加することで、彼らの自立を促す社会参加の場を確保するとともに、適性に応じてライスセンター等で就農を支援しながら、通年営業の可能性を検証する。

令和4年度より事業開始(協働事業2年間) 湘南ライスセンターでの体験：12日間、延べ81名参加 市内農家での体験：6日間、延べ12名参加 ⇒自立に向かった若者：4名(就労3名、進学1名)
--

【農作業受託事業】

農業者の高齢化及び後継者不足に伴い、農業の担い手が不足するとともに、耕作放棄地の発生が問題となっている。対応策として、農作業の受託組織の育成が重要であることから、農作業受託組合に対し、農業機械・資材の購入費の一部を補助することにより、組織の育成と強化を図っている。

【農業経営基盤強化補助】

市が認定した農業経営体（認定農業者）の農業経営規模の底上げを目的に、農業経営の拡大及び効率化を推進する事業に対して補助。

【スマート農業導入支援補助】

市の認定した農業経営体（認定農業者及び認定新規就農者）がロボット・AI・IOT等の先進技術を活用した農業の導入により、農業経営の拡大及び効率化を推進する本市農業モデルを創出し、新型コロナウイルス感染症の影響下でも食料の安定供給や生産量の増大が図られる事業に対して補助。

R4 年度実績	申請数：18 件	決算額 42,381 千円	補助率 1/2	上限 5,000 千円
(国庫：35,546 千円 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)				
R3 年度実績	申請数：15 件	決算額 51,278 千円	補助率 2/3	上限 5,000 千円
R2 年度実績	申請数：18 件	決算額 93,896 千円	補助率 3/4	上限 10,000 千円

【ライスセンター整備支援事業補助】

農業経営体数や経営耕作面積は減少傾向にあり、全国的に問題となっている高齢化・担い手不足などは、市でも大きな課題となっている。

人手不足などによる耕作放棄地の発生を抑制し、水田を集積・集約化して持続可能な米作りを推進するために城島地区に(株)湘南ライスセンターが建設された。

この施設では、現在約 70ha の水田を受託しているが、これ以上、受託面積を拡大することが難しいことから、新たに金田地区の農業者が法人登記を行い、令和 6 年度の操業を目指して JA 湘南と本市で支援している。

令和 4 年度予算 236,500 千円 (国庫 37,588 千円)			
・開発工事	6,600 千円	市補助	6,000 千円
・建築工事	162,800 千円	市補助	108,633 千円
・機械・設備等	134,048 千円	市補助	121,861 千円
総事業費	303,448 千円	市補助	236,494 千円

【新規就農者家賃支援補助】

高齢化や担い手不足により、農業経営体数や経営耕作面積は減少傾向であり、意欲ある農業者を確保するため、収入が安定しにくい認定新規就農者（最長 5 年間）に対して、居住する住宅の家賃の一部の補助を令和 4 年度から新設し、担い手を確保する。

1/2 以内	上限 30 千円/月
・認定新規就農者の推移	H30：7 人 H31：9 人 R2：8 人 R4：10 人

【ワンストップ窓口】

湘南地域担い手育成総合支援協議会で、農水産課、農業委員会、J A 湘南等の関係機関が連携し毎週水曜日の午後から、新規就農の相談や農地の賃貸借等の相談窓口を開設している。

新規就農：41件 農地の賃貸借：45件 認定農業者の認定等：48件 その他：39件

②農業のイメージアップとPRについて

【平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」による農業理解促進】

ベジ太は東海大学人間環境課程と芸術学科デザイン学課程の学生チームがデザインした。ベジ太は平塚市の地形からイメージした犬で、平塚市の特産品である「いちご」「きゅうり」「トマト」「こまつな」「なす」を背負っている。

とれたての新鮮な平塚産農産物を市民のもとにおいしく味わってもらおうよう、地産地消を推進するのがベジ太の役割である。新鮮で美味しい平塚産農産物の魅力を伝えるために、フラッグやポスター、看板、チラシ等のPOPデザインとして市主催イベントや市内直売所、スーパーの野菜売り場などで使用している。また、学校給食との連携しベジ太のメニューの提供や幼稚園・保育園、小学校の出前授業も展開している。



【農業チャンネル YouTube による情報発信】

平塚の農水産業への理解や地産地消促進のための YouTube を活用した情報発信を行っている。

<ベジ太デラックス>

みんなで楽しく平塚の農業について学ぶことをコンセプトにした番組で、全4回で「バラ、キュウリ、いちご、酪農」の番組で農業に関する疑問を平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」と一緒に解決している。



第1回 (2021年6月) バラづくりを学ぶのだワン!

第2回 (2021年11月) キュウリづくりを学ぶのだワン!

第3回 (2022年1月) いちごづくりを学ぶのだワン!

第4回(2022年2月)酪農を学ぶのだワン!

<Smart Agriculture*Smart Life@Hiratuka>

平塚市のスマート農業を紹介するPR番組です。農業は“3K(キツイ、汚い、危険)”のイメージを払拭し、“カッコイイ、稼げる、感動する”農業を目指すスマート農業の取り組みを紹介し、最新のスマート農業を紹介している。

第1回~直進アシスト機能付きトラクタ・ラジコン草刈り機・アシストスーツ~

第2回~無人自動運転田植機・遠赤外線乾燥機~

第3回~ビニールハウスの環境制御システム~

第4回~水耕栽培の自動管理装置とモニタリングシステム~

<平塚食べCIAO(ちゃお)!>

県内トップクラスの生産量を誇る米やバラ、きゅうり、いちごなどの特産品を始め、多種多様な農産物が生産されている。その様々な農産物や農家、調理のレシピなどを平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」とともに紹介する10分間の番組を制作し、ケーブルテレビSCNの湘南チャンネルで放送している。(学校の授業でも登場している。)



<地場産品消費促進事業補助>

平塚市産農水産物の普及と販売を促進し、農水産業の活性化に資するため、資機材の購入や宣伝活動に係る経費及び商品開発に係る経費などの一部を補助している。

補助対象：湘南農業協同組合、平塚市漁業協同組合及びその他市長が適当と認める農水産業の生産者を主体とする団体

対象経費：平塚市農水産物(加工品を含む)の普及と販売に係る資機材の購入や宣伝活動に係る経費平塚市農水産物を活用した商品開発に係る経費

令和4年度補助内容・・・米販売袋・キーホルダー・シール等・段ボール・チラシ等

③農業における新事業の創出及び新商品の開発支援販路拡大に向けた支援

<湘南ひらつか特産品>

平塚市と平塚商工会議所では、昭和60年から「湘南ひらつか名産品等」を選定することで、市内産業の振興に取り組んでいる。5年ごとに見直しを行っており、認定期間は令和5年4月1日~令和10年3月31日である。県内でも優秀な生産量を誇る農水産物である「湘南ひらつか特産品」は9品となっている。



<産業間連携ネットワーク>

事業者が農産物を使った商品を開発したい時に、6次産業化認定まで壁があることから、市独自に産業間連携ネットワークを構築して、手軽な6次産業化を進めている。(手軽な6次産業化・・・会員である市内事業者同士がプロジェクトチームを作り「地域資源」や「得意分野」を活かした新商品の開発、新事業の創出等を行う際に、開発費用補助や専門家の派遣などを行っている。)

産業間連携ネットワークの内容

(1) 会員登録 90 事業所 (R5.6 時点)

・商業 47 ・工業 6 ・農業 11 ・漁業 3 ・観光 2 ・その他 21

○会員登録及び年会費・・・無料

○会員の要件

- ・1次産業に従事する者であり、平塚市内に在住している者
 - ・平塚市内で事業を行っている個人事業主又は団体
 - ・平塚市内在住の1次産業に従事する者が主たる構成員又は出資者となっている事業者
 - ・平塚市内に本社、工場、支店、事業所等を有し、本市エリアを対象に営業等を行う事業者
 - ・大学、短期大学、高等専門学校、高等学校又は公的な試験研究機関
- ※会員対象に、セミナーやマッチング会を定期的に開催

(2) プロジェクトチームの要件

新商品開発等の支援を受けるには会員のプロジェクトチームの結成が必要である。

- ・代表者は平塚市内の会員とする
- ・会員事業者2社以上とする(3社目は市外でも可)
- ・他業種との連携により新たな付加価値を生み出すプロジェクトであること。

(3) 支援内容

①専門家派遣支援

プロジェクトチームに対して助言を行う専門家を派遣する。

(1プロジェクトに対し年度内5回以内、1回2時間以内)

②新事業創出・新商品開発補助金

地域資源、経営資源を活用した新事業の創出、新商品開発に係る経費の一部を補助する。

・補助率：1/2 上限：30万円(予算の範囲内)

・対象経費：研究・開発費(試作に伴う原材料費、デザイン、製造、加工するために支払われる経費等)、委託料、借料、広報費(チラシ、ポスターの作成費等)

※同一の会員プロジェクトに対しての補助回数は年度内に1回とし、通算して2回までとする。

③PR 出店費補助金

完成した新商品や新事業に対してPR出典費を一部補助する。

・補助率 1/2 上限：3万円(予算の範囲内)

・対象事業：市外で開催され、国、地方公共団体等が主催または実行委員会を組織し、広く参加を募る見本市、物産展等

【主なプロジェクトと新商品】

●地元野菜の魅力を伝えるプロジェクト「湘南ひらつか野菜物語プロジェクト」 (猪俣農園×旬菜屋 NOBU×小巻ファーム)

平塚野菜の魅力や美味しさを、市内外に伝えたいということから始まったプロジェクト。地元農家の猪俣農園、湘南小巻ファームで栽培した季節の野菜を、地元レストラン、旬菜屋 NOBU がプロデュースし、オリジナル加工品を開発した。無農薬、減農薬のこだわり野菜は安心・安全で新鮮な、野菜本来の美味しさを味わうことができる。加工品にすることで、野菜の鮮度と美味しさを保つことができる。また、規格外の野菜の活用もできるため、野菜の廃棄を減らすことができ、近年問題となっている食品ロスを防ぐことにもつながっている。マルシェなどの“地元平塚野菜”の直売や加工販売を通じて平塚の魅力を市内外に伝えていく。



(オリジナルドレッシング) (ピクルス・野菜味噌)

●lilium プロジェクト ((有)五領ヶ台ガーデン×(株)日本カプセルプロダクツ×(株)プラネット×陶磁器工房 器楽)

日本でとても希少価値のある幻のユリと呼ばれる「マドンナリリー」を多くの方に知ってもらいたいという思いから誕生したプロジェクト。植物を育て、花を見て、香りを楽しむ豊かな時間を過ごしてもらうことをコンセプトにマドンナリリー関連商品を開発した。これまで、B to Bを主としていた五領ヶ台ガーデンで、E C販売を始めるため市内4社で連携し新商品を展開。マドンナリリーに親しみを持ってもらい、手に取ってもらいやすいものにするにはどうしたらよいか検討を重ねた。香りのプロデュースを(株)日本カプセルプロダクツ、アロマオイルを(株)プラネット、オリジナル陶器鉢と陶器ストーンを陶磁器工房器楽が担当した。



●傘・香るおもてなしプロジェクト「ramind」

((有)こぼり×(株)日本カプセルプロダクツ×横田園芸)

傘のゴミや盗難を減らし、屋内や人込みで傘の雫で迷惑をかけない。いつかは、「屋外で傘立てのない快適なまちであって欲しい」そんな想いに共感した3事業者がrain(雨や雫)×mind(気分や気付き)を組み合わせた造語“レミンド”から、ramindプロジェクトを発足させ、アンブレラアロマカバーが誕生した。傘カバーのデザインを(有)こぼり、香りのデザインを横田園芸、香料マイクロカプセル制作を(株)日本カプセルプロダクツが主体となってプロデュース。この商品の大きな特徴である“ひらつかローズ”は、平塚市の風土や景観をイメージしたオリジナルアロマです。美しい湘南の海やその眺望、豊かでのんびりした自然や緑をカジュアルでナチュラルなフレッシュ感ある香りで表現している。



【所感】

平塚市の現状を伺い、農業の課題は従事者の高齢化や減少や消費者ニーズへの対応、農業環境についてなど本市と共通する部分が多くあると感じた。平塚市では、目標施策を3つ掲げ、その目標達成のために平塚市の現状を伺い、農業の課題は従事者の高齢化や減少や消費者ニーズへの対応、農業環境についてなど本市と共通する部分が多くあると感じた。平塚市では、目標施策を3つ掲げ、その目標達成のために具体的な対策に打って出ている点は、非常に共感を持つことができた。特に、農業のPRについては目を見張るものがあり、イメージキャラクター「ベジ太」の制作、そしてキャラクターを活用した番組制作を行うなど情報発信に力を注いでいる様子が伺えた。また、新商品の開発支援や産業間連携ネットワークに

より、企業間の連携の橋渡しを市が率先して関わり、プロジェクトによる新商品の開発、宣伝へと結びつけている。平塚市では農業の課題を、どのように解決へと導いていくのか、施策を講じていくべきか当市として参考となる事例を見た。具体的な対策に打って出ている点は、非常に共感を持つことができた。特に、農業のPRについては目を見張るものがあり、イメージキャラクター「ベジ太」の制作、そしてキャラクターを活用した番組制作を行うなど情報発信に力を注いでいる様子が伺えた。また、新商品の開発支援や産業間連携ネットワークにより、企業間の連携の橋渡しを市が率先して関わり、プロジェクトによる新商品の開発、宣伝へと結びつけている。平塚市では農業の課題を、どのように解決へと導いていくのか、施策を講じていくべきか当市として参考となる事例を見た。

【市への政策提言等】

本視察により、当市において参考となる事例を見た。2020年に創設した「スマート農業導入支援補助金」は、ICTやロボットなどの先端技術の機器導入に対し、購入額の2分の1を助成するなど、当市においてもスマート農業について前向きに検討する必要があると感じている。また、無人自動田植え機やビニールハウスの環境制御システムなど、最新機器が多数活躍し、担い手の確保や高齢化の対応を講じている施策は、当市でも取り入れていく必要がある事例と感じた。

特に農業のイメージとPRについては、「Smart Agriculture * Smart Life @Hiratsuka」など平塚市のスマート農業を紹介するPR番組をYouTubeで広報するなど農業についてのイメージの改善、キャラクターの起用など、当市においても参考となる事例が多くあった。さらに、新商品の開発支援や産業間連携ネットワークにおいて目に見える成果があり、行政が企業間連携の橋渡しを行い、新商品の開発に一役を担い、そして、平塚市の特産品に結び付けているという成果が見られた。石巻市は水産のまちと言われることがあるが、水産業のみならず、農業に従事している人も多い。当市のこれからの農業振興において、平塚市での事例を参考にして農業のイメージ改善や担い手確保において、SNSやキャラクターを起用するなど、これからの農業振興をどう進めて行くべきか、工夫を凝らしていく必要があると提言する。



焼津市

『水産業の振興について』
『製造品の販路拡大や焼津のブランド力向上について』
『水産物を中心とした観光プロモーションについて』

静岡県焼津市視察概要

視察テーマ：水産業の振興について

- ：製造品の販路拡大や焼津ブランド力向上について
- ：水産物を中心とした観光プロモーションについて



◎視察概要

(焼津市の概要)

世帯数及び人口：59,636世帯 136,623人 高齢化率28.7%

市の面積：70.30Km²

焼津市は、静岡県の中央部で、北は遠く富士山を臨み、高草山（501メートル）、花沢山（449メートル）などの丘陵部を築に県都静岡市に接し、東に駿河湾を臨み、西南は一望に広がる大井川流域の志太平野で、西に藤枝市、大井川を挟んで吉田町と島田市に接している。

また、江戸時代に入ると、新田開発も進み、農業も盛んになる一方、川口港を利用した廻船業が発達し、明治22年の町村制施行により近隣12ヵ村が合併して焼津村となった。明治41年、石油発動機付きの漁船により、操業区域が八丈島までに拡大し飛躍的な漁獲を得たため、これ以降漁船は競って大型船、鋼船へと更新されていった。

焼津市では、第6次焼津市総合計画第2期基本計画において水産業の振興を掲げており、外地船誘致活動や漁船建造支援などの取組みを行っており、水産物を中心とした地域資源の情報発信、観光ブランド化、観光プロモーションの展開も行っている。

議員定数：21人

職員定数：1,596人

◎焼津市水産業の振興

【課題と対応方針】

1. 水揚げ量の確保・水産品の消費拡大

- ・安定した水揚げ確保と漁業経営の支援
- ・魚食の普及に向けた支援
- ・人材確保・育成への支援
- ・デジタル技術の導入による省力化・効率化への支援



- ・外地船誘致促進による原魚の安定供給
- ・水産振興会の水産オール焼津での取組

戦略1

- ① 水揚げ促進支援
- ② 試算振興会事業
- ③ 漁業近代化資金利子補給
- ④ もうかる漁業改革型漁船建造支援事業
- ⑤ さかなセンター活性化対策事業
- ⑥ 水産物輸出衛生管理促進事業 ほか
- ⑦ 焼津船員後継者対策事業
- ⑧ スマート水揚げ事業

- ・漁業の新たな担い手の育成と確保のための支援や情報提供
- ・水産業のデジタル化への支援

2. 漁港整備事業の促進

- ・津波等防災対策の強化
- ・外港野積場諸相工等



- ・漁港管理者（県）と一体的に実施
- ・漁業者、地元などの関係者との協議

3. 深層水の需要喚起と深層水関連施設の管理

- ・安定的な供給と施設運営のための修繕と設備の更新



- ・深層水の利活用促進に抜けた PR
- ・アクセスをはじめとする深層水関連施設の適切な維持管理

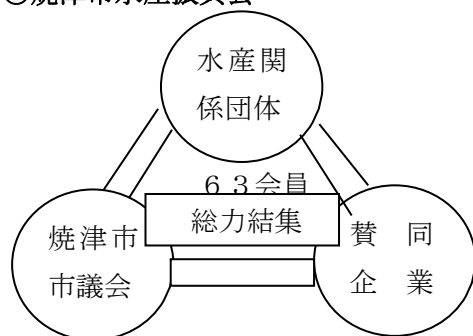
戦略 2

- ① 県営漁港整備事業負担金
- ② 特定広域漁港整備事業負担金

戦略 3

- ① 脱塩施設管理運営
- ② アクアスやいづ管理運営事業
- ③ 深層水利用促進交流施設管理費運営

◎焼津市水産振興会



1. 水産業を取り巻く課題に迅速に対応
2. 基幹産業の水産業振興
3. 焼津市の活性化

外地船誘致対策事業
ミナミマグロ PR など

水産オール焼津で日本一の水産都市の構築

◎水産物消費・販路開拓・輸出委員会事業

1. 輸出戦略事業について
 - ・海外輸出推進事業→海外輸出推進事業・HACCP 現地指導派遣事業
 - ・水産物輸出・HACCP セミナー開催事業
2. 水産物消費・販路開拓事業について
 - ・さかなのまち焼津観光物産展
 - ・土岐市美濃焼伝統工芸品まつり
 - ・山梨ラザウオーク観光物産展
 - ・海街ホール 水産加工品物産展
 - ・焼津ぐるめぐり「おいがわ桜えびめぐり」
 - ・市公式 LINE プレゼントキャンペーン など

◎焼津ミナミマグロ PR 委員会

1. 焼津市ぐるめぐり第1弾「鮪めぐり」の実施
2. 山梨方面プロモーション
3. 鮮魚組合 食育事業「焼津ミナミマグロ解体実演」事業補助
4. 天然ミナミマグロ PR 事業補助
5. 市公式 LINE「天然焼津ミナミマグロ」プレゼントキャンペーン

◎所 感

焼津市は、2021年（令和3年）9月21日までの市庁舎の西側に新しい庁舎ができ、本年7月に立体庁舎場が完成した。焼津漁港は焼津港と小川港と2つの港湾があり、全国有数の水産文化都市として機能している。焼津港は、カツオ・マグロを主とする遠洋漁業の基地・小川港は、さば・いわし・あじなどの多獲性魚を採捕する沿岸・沖合漁業の基地となっていて2022年（令和4年）の水揚げは503億8,800万円で全国一位となっている。石巻市は185億5,530万円で全国8位、水揚げ量は焼津市が118,697トン（3位）で石巻市が103,425トン（5位）となっている。消費拡大と消費圏でのPRや公式LINE活用など積極的な仕掛けを実施している。

◎政策提言

本市においても、石巻市漁船誘致及び原魚等確保推進委員会において、漁船誘致やトップセールスを行うなど努力をしているものの、今夏にみる酷暑のように養殖や沖合など海洋変化に伴う漁獲量の減少傾向が大きな課題である。ますます熾烈化する各漁港における競争力は魚単価やニーズと横断的な観光など多面的に取り組まなければならない。ギネスに載った魚市場だけではなく、クオリティが求められる。また、焼津市では海洋深層水を早く取り入れ、タラソテラピーや消費地圏とのコラボも丁寧に行っていた。石巻ブランドの強化と特色ある沿岸漁業、輸出など視野に入れ取り組むべきであると提言する。



お問い合わせ

石巻市議会事務局 議事調査係

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号

Tel: 0225-95-5080 (議会直通)

Fax : 0225-96-2274

Mail: assesc@city.ishinomaki.lg.jp